



- 1. 阪大坂下 (旧医短門)
 - ・新しい阪大の顔となる整備を行う。
 - ・歩行者アプローチとして魅力的なものにする。
 - ・総合学術博物館と駐輪場と一体的な計画を行う。
- 2. 阪大坂
 - ・歩行者アプローチとして魅力的なものにする。
 - ・中山池からイ号館方向への眺望を生かす。
 - ・待兼山尾根とのつながりを生かす。
- 3. 石橋門
 - ・主たる歩行者の入口としてふさわしい整備をする。
 - ・現況の豊かな緑を残しながら、より人が集い、くつろげる空間に変えてゆく。
 - ・維持管理に費用がかからない形態を目指す。
- 4. イ号館周辺
 - ・新しい学生交流棟とセットでシンボル空間を創造。
 - ・中山池親水広場として整備し、憩いの空間、サークル発表、地域イベント等の為の野外ステージとしても使用できるようにする。
 - ・図書館方向、中山池方向への見通しの良い空間にする。
- 5. 共通教育前ゾーン (コミュニティゾーン)
 - ・駐輪場を整備する。
 - ・中山池～乳母谷池の軸線を重視し、見通しよい街路として整備する。
 - ・図書館旧館、文法経校舎改修にあわせて、基礎工前に至る新たな歩行者街路を計画する。
 - ・上記に伴い、浪高庭園を整備する。
 - ・浪高庭園は、豊かな緑を生かしながら、くつろぎやすい空間の広がりが見通しの良さを持った庭園として整備してゆく。

計画条件

1. 空間の骨格イメージを元に良いところを伸ばす計画とする。
2. 交通ネットワークの検討を反映する。
3. ディベロップメントプランと整合を計る。
4. 現在の駐車台数をできるだけ減らさない。
5. 柴原から歩行者動線を整備する。
6. 保全緑地、保全空地を定義する。
7. 駐車場計画との整合を計る。
8. 将来計画建物が主要な歩行者動線に悪影響を与えないように配慮する。

*豊中キャンパスは、外部空間再編の余地が比較的限定されていることから、道路、歩道、広場、保全緑地、駐車場等の配置計画を、より具体的かつ詳細に行う(凡例参照)。



その他の、または、今後の重要な検討項目

- A. 待兼谷広場整備
 - ・博物館との一体的計画を行う必要がある。
 - ・待兼山ゾーンの核となる広場として、里山を保全しながら整備してゆく。
 - ・阪大坂にかわる新たな主歩行者動線として、旧医短門から石橋門へ至る経路の一体整備を検討する。
 - ・上記のネックは、尾根高さが石橋門より6m高いことである。待兼谷と石橋門間の尾根開削や、トンネル掘削も案としては考えられる。
- B. 東口整備およびその他緊急用出入口 (図中▲)
 - ・現状では常時車が入構出来るのは正門だけであり災害等の緊急時の対応に問題がある。
 - ・東口からの車出入口整備を検討する。但し十分な環境、景観、安全上の検討が必要である。
 - ・イ号館裏口、刀根山寮裏口、極限化学センター裏口の緊急用、その他用出入口の役割を明確にする。
 - ・上記は、十分な近隣への配慮、折衝が必要である。
- C. 文系ゾーンを南北に貫く新街路設定
 - ・食堂(どんどん)と新文法経総合研究棟の間の、現駐車場部分を、らふおれ前までつながる歩行者街路として整備することも考えられる。

デザインガイドライン

1. 将来計画建物が、歩行者動線や景観、広場に悪影響を与えない為のボリュームの考え方を示す。(日影、D/H)
2. 歩車道の考え方を街路特性に応じて示す。
3. 駐輪場分散配置(一部は集中配置)の考え方を示す。
4. 植栽の、街路との関係性や方針を示す。
5. 中庭(将来新規・改修)の方針を示す。
6. 建物入口と街路の関係性や方針を示す。

- 10. 福利ゾーン
 - ・可能な限り歩行者街路としての快適性を高めるが、重要な車動線にもあたるので歩車分離を徹底する。

- 11. 共通教育棟群裏道路整備
 - ・交通動線の整理上、非常に重要である。
 - ・石垣、地山を切り崩す必要があり、大がかりな工事になる。



凡例

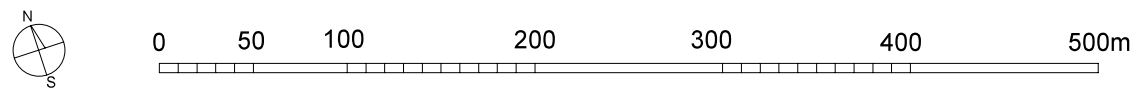
- 主な道路(車道)
- 歩行者専用街路・歩道
- 計画広場・保全空地
- 保全緑地
- 計画立体駐車場
- 駐輪場(大規模なもの)
- ディベロップメントプランでの計画建物
- 主要な並木
- ▲ 緊急時車両入構口

- 6. 図書館・サイバーメディアセンター周辺
 - ・歩行者専用化し、イ号館前と対をなすシンボリック空間として整備する。
 - ・乳母谷池親水空間と一体整備して池の景観を生かし、中山池からの軸線も生かした整備を行う。
 - ・東口への歩行者通路は、乳母谷池の景観を活かした整備を行い、調和を損なわないようにする。

- 7. 基礎工前
 - ・バスロータリーを整備し、交通結節の核として整備する。
 - ・将来計画の図書館旧館、文法経校舎改修において、シンボリック建物立面(ファサード)を計画する。
 - ・浪高庭園方面、図書館前方面、柴原口方面、福利ゾーン方面、それぞれへの快適な歩行者アクセスを実現する。

- 8. 工作センター周辺
 - ・主要な歩行者経路として快適な街路を形成。
 - ・現工作センター北側～柴原口は歩行者専用化する。
 - ・可能な限り緑地、広場化をはかる。
 - ・将来計画建物が歩行者街路・広場に悪影響を及ぼさないようにする。

- 9. 柴原口
 - ・主要な歩行者経路として快適な街路を形成する。
 - ・駐輪場を合わせて計画する。
 - ・計画立体駐車場は、歩行者街路に圧迫感や景観上の悪影響を与えないよう十分に検討する。



1/4000